

幕張メッセを武器見本市 DSEI Japan に貸し出さないよう千葉県に求める
件に関する陳情

〔願意〕

幕張メッセで 2025 年 5 月 21 日～23 日の期間に開催が予定されている国際的な武器見本市 DSEI Japan に県有施設を貸し出さないよう千葉県に求めるべく、陳情いたします。

〔理由〕

日本国憲法の前文には「われらは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和の内に生存する権利を有することを確認する。」とあります。憲法 9 条と並び、日本の国是の平和主義の所以です。

しかしながら幕張メッセでは過去 4 回 (MAST Asia2017、MAST Asia2019、DSEI Japan2019、DSEI Japan2023) も国際的な武器見本市が開催されており、その結果会場を貸し出した千葉県や開催を後援した日本政府は武器の拡散や武力行使に手を貸したこととなり、前述の憲法前文の崇高なる理念を踏みにじってきました。

そしてまた来年 5 月 21 日～23 日の 3 日間、世界最大規模の武器見本市 DSEI の日本版 DSEI Japan2025 が同会場で開催予定です。

昨年 10 月来のイスラエルのパレスチナ、とりわけガザへの攻撃はひどく、ジェノサイドだとの指摘を一顧だにしようもしないイスラエルに対する国際社会の目はたいへん厳しいものになっています。DSEI Japan2019 に出展していたイスラエルの軍事企業ラファエル社は同イベ

ント時に「我が社の武器の性能は実戦で証明済み」である旨のセールストークをテレビカメラの前で繰り広げました。(TBS「NEWS23」)。ガザの人々の命を奪った結果を用いて自社製品の有能さをアピールしたその「死の商人」ぶりには多くの人が啞然とさせられました。

そのイスラエルの軍事企業がDSEI Japan2023では16社(陳情者調べ)も出展していました。日本国憲法前文の「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ」るように力を注ぐべき日本が逆に、今まさにガザの人々が置かれているその「恐怖と欠乏」の状況をむしろ作り出す側になってしまっていることに対して、会場の幕張メッセを貸し出した千葉県は自覚を持ち、反省する必要があります。イスラエルの軍事企業に商機の場を提供する千葉県はジェノサイドに加担したといわれても否定できません。

次々と生産されては売買され、消費される武器。その消費とは即ち誰かの死です。人を殺傷して儲ける武器産業を遠からずこの地球上から消し去ることが理性ある人間の目指すべきところであり、平和憲法、そして「非核平和千葉県宣言」の下に生きる私たちの責務です。さらには「平和都市宣言」において「世界の恒久平和」を願うと記す船橋市の責務でもあります。

よって武器見本市DSEI Japanへの県有施設幕張メッセの貸し出し契約を破棄するよう船橋市から千葉県に求めるべく、ここに陳情いたします。